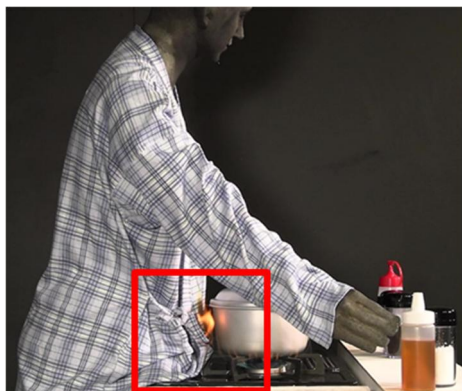


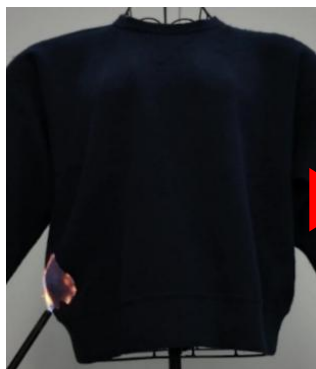
冬の“もふもふ”接近注意報！ ～ガスこんろの事故で気を付けたい 4 つのポイント～

衣服が厚手で「もふもふ」しがちな冬の時期、ガスこんろを使用中に衣服が炎に近づく「着衣着火」のおそれが高まります。また、ペットがガスこんろの操作ボタンを押す「もふもふプッシュ」による火災も発生しています。衣服とペット、どちらも火に接近しないよう注意が必要です。

独立行政法人製品評価技術基盤機構〔NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原〕は、ガスこんろの事故を防止するためのポイントを紹介します。



ガスこんろの炎に衣服が接触して着火



着火直後



着火の約1秒後

着衣着火後、表面フラッシュ現象で炎が広がっている様子

2020 年から 2024 年までの 5 年間に NITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※1}では、ガスこんろの事故が 152 件ありました。そのうち、誤使用・不注意による事故が約 5 割を占め、事象別の内訳では「火の消し忘れ」による事故が多くなっているほか、「ペットによる点火」や「ガスこんろやグリルの汚れを放置」することによる事故も発生しています。

また、ガスこんろでは、衣服に火が移る「着衣着火」の事故も発生しています。消防庁のデータ^{※2}では、着衣着火により毎年 100 人前後の方が亡くなっており、内訳では「たき火」の次に「炊事中」の事故が多く発生しています。

■ガスこんろの事故を防ぐポイント

- 使用中は、衣服と炎の距離を意識し、近づき過ぎない。
- ガスこんろの使用時及び使用後は、点火・消火の確認をする。離れる際は必ず火を消す。
- ガスこんろやグリルは汚れを放置しない。

掃除時間を短縮するために、取扱説明書の禁止事項を行わない。

【ペットがいる場合】

- 出掛ける際はガスこんろの元栓を閉め、操作ボタンをロックする機能がある場合は使用する。
- こんろの近くにペットの興味を惹く物を放置しない。

（※） 本資料中の全ての画像は再現イメージであり、実際の事故とは関係ありません。

（※1） 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故を含みます。

（※2） 出典：総務省消防庁 「火災の実態について」

https://www.fdma.go.jp/relocation/html/life/yobou_contents/info/

1. 事故の発生状況

NITE が受け付けた製品事故情報のうち、2020 年から 2024 年までの 5 年間に発生したガスこんろの製品事故 152 件について、事故発生状況を以下に示します。

1-1. 年別の事故発生件数

NITE が受け付けたガスこんろの製品事故情報について、年別の事故発生件数を図 1 に示します。ガスこんろの事故は Si センサーの普及等により減少しましたが、直近 5 年は毎年 30 件前後の事故が発生しています。

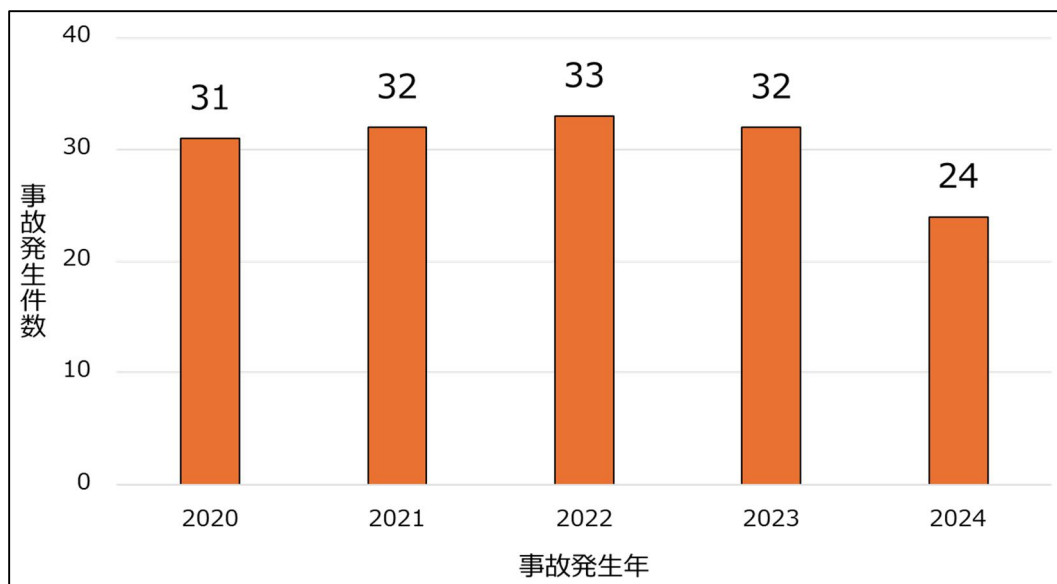


図 1：年別の事故発生件数

1-2. 事故の被害状況

ガスこんろの過去 5 年間の製品事故 152 件における被害状況別の事故件数を表 1 に示します。火災事故及び人的被害の事故が多く発生しています。

表 1 被害状況別の事故件数^{※3} () は被害者数。

被害状況		2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	総計
人的被害	死亡	2 (2)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	7 (7)
	重傷	1 (1)	3 (3)	2 (2)	1 (1)		7 (7)
	軽傷	3 (3)	7 (8)	2 (4)	3 (4)	3 (5)	18 (24)
物的被害	拡大被害 ^{※4}	16	13	10	10	12	61
	製品破損	9	7	17	14	6	53
被害なし・不明			1	1	3	1	6
総計		31 (6)	32 (12)	33 (7)	32 (6)	24 (7)	152 (38)
うち火災件数		23	27	20	23	18	111

(※3) 物的被害（製品破損または拡大被害）があった場合でも人的被害のあったものは、人的被害に区分している。
また、人的被害（死亡・重傷・軽傷）が複数同時に発生している場合は、最も重篤な分類で事故件数をカウントし、重複カウントはしていない。

(※4) 製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすこと。

1-3. 原因別の事故発生件数

ガスこんろの事故 152 件について、「原因別の事故発生件数」を図 2 に示します。「誤使用や不注意」と推定される事故が最も多く、原因不明及び調査中を除いた原因別件数では約 7 割を占めています。

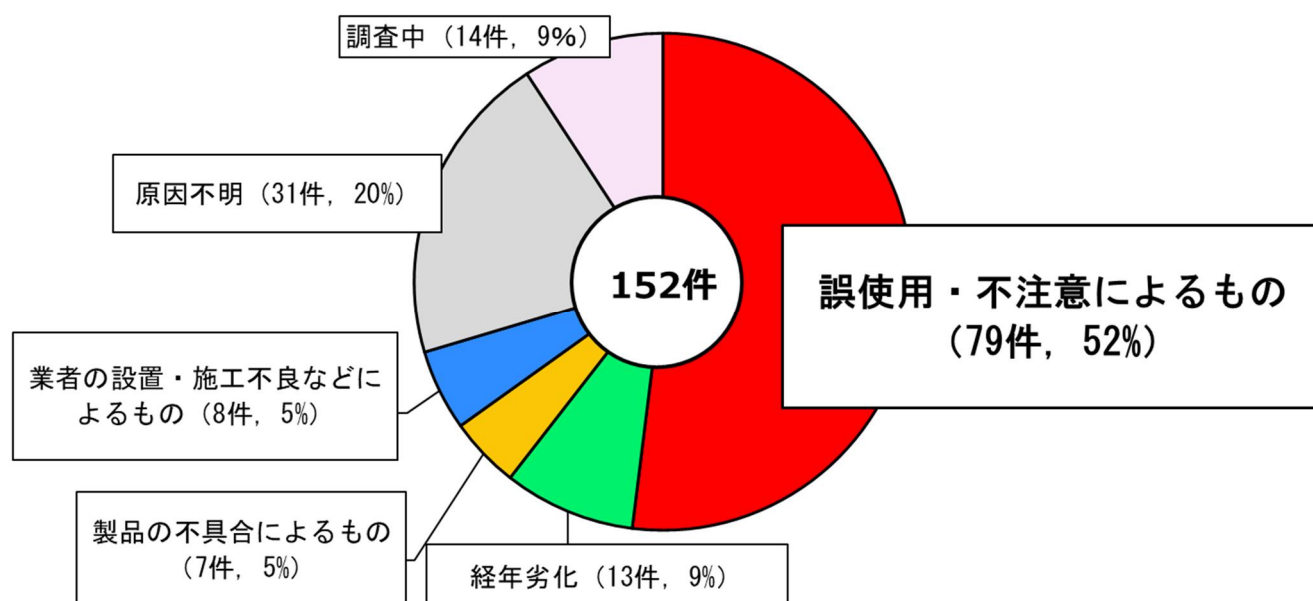


図 2：原因別の事故発生件数

1-4. 「誤使用・不注意による」事故の事象別ワースト

「誤使用・不注意による」事故について、事象別ワーストを表 2 に示します。火の消し忘れや近くに可燃物があり着火してしまった事故が多くなっています。また、着衣に着火してしまった事故や、ペットによるガスこんろの点火といった事故も発生しています。

表 2 事故の事象別ワースト

事故事象	総計
ガスこんろの火の消し忘れや火を消さずに離れてしまった	17
近くの可燃物（着衣以外）に着火した	13
ガスこんろやグリルを誤って点火してしまった	8
ガスこんろやグリルの汚れを放置したことによる事故 （煮こぼれ・吹きこぼれでガス配管が腐食してガス漏れ、グリル庫内の汚れの発火 等）	8
ガスこんろの炎が着衣着火した	4
ペットによるガスこんろの点火（もふもふプッシュ※5）	4
掃除時間を短縮するために、取扱説明書で禁止されている使用方法をしてしまった	4
ガスホースの取り回し不備でホースが破損した （ガスこんろの下などの高温になる場所に接触していた）	4

（※5）ペットが家電やガス機器の操作ボタンを押したりして、火災や事故が発生すること。（参考 2024 年 3 月 28 日 NITE プレスリリース「[“もふもふプッシュ”にご用心～「ペットによる火災事故」を防ぐポイント](#)」）

2. 事故事例

■ガスこんろの炎が「着衣に着火」した事故

事故発生年月 2022 年 10 月（奈良県、60 歳代・女性、重傷）

【事故の内容】

ガスこんろを使用中、衣服に着火し、やけどを負った。

【事故の原因】

使用者がガスこんろの左側に置かれていた調理器具を右手で左奥へ移動させた際に、右上腕部が左こんろに接近し、左こんろのバーナーの炎が着衣に着火したものと考えられる。

なお、取扱説明書には、「使用中は衣服を炎やバーナーに近づけない。衣服に着火するおそれがある。」旨、記載している。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

ガスこんろ 衣服 着火



ガスこんろの炎に衣服が接触して着火

■ガスこんろの「消し忘れ」による事故

事故発生年月 2022 年 10 月（富山県、80 歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

ガスこんろを使用中、ガスこんろを焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

ガスこんろのグリルを使用中に火を消し忘れたため、グリル庫内に堆積していた油脂等が発火し、敷いてあった可燃物に延焼して出火したものと推定される。

なお、取扱説明書には、火災の原因になることから、「機器の下に新聞紙やビニールシートなどの可燃物を敷かない。」「火をつけたまま機器から絶対に離れない。」「グリルを使用後はグリル受け皿にたまった脂、グリル焼網についた皮や食材は、使用のつど取り除く。」旨、記載されている。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

ガスこんろ 消し忘れ

■グリルの「掃除時間を短縮するために、取扱説明書で禁止されている使用方法」をしてしまった事故

事故発生年月 2022 年 10 月（神奈川県、30 歳代・女性、製品破損）

【事故の内容】

ガスこんろを使用中、ガスこんろを焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

グリル内にアルミ箔を入れたことでアルミ箔の下部に熱が滞留し、グリル皿に堆積していた油脂等が過熱されて発火したものと推定される。

なお、取扱説明書には、「脂が多く出る調理では、グリル焼網の上や下にアルミ箔を敷かない。」旨、記載されている。

【NITE SAFE-Lite 検索キーワード例】

ガスこんろ グリル アルミ



焼き網の上にアルミ箔を敷いて
堆積した油脂等が発火

■「ペット」がガスこんろの操作ボタンを押した事故

事故発生年月 2022 年 7 月（愛知県、60 歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

飼い主が外出時に、事務所でガスこんろ及びその周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

室内で飼っていた犬が操作ボタンを押したことでこんろの火が周囲の可燃物に着火し、火災に至ったものと推定される。

なお、ガスこんろの操作ボタンはロックがかかっておらず、左右こんろの間には犬の餌が入った樹脂製容器が置かれていた。

【[NITE SAFE-Lite](#) 検索キーワード例】

ガスこんろ 犬



ガスこんろの操作ボタンを押す犬（イメージ）

3. 気を付けるポイント

「ガスこんろの事故」を防ぐポイント

○使用中は、衣服と炎の距離を意識し、近づき過ぎない。

ガスこんろの炎は、目に見えている部分以外にも広がっているため、目に見えている炎から離れていても着火するおそれがあります。特に冬は重ね着などで衣服が厚くなるため、衣服の過熱や着火に気付きにくくなります。さらに、衣服が毛羽立っている状態などでは、着衣着火時に表面フラッシュ現象（詳細は別紙1）が発生することがあり、髪などに着火するおそれもあります。衣服と炎との距離を常に意識し、近づきすぎないように注意してください。

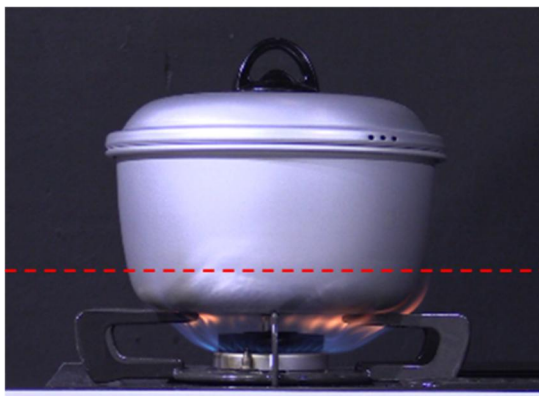
消防庁のデータ（別紙3）によると、着衣着火は65歳以上の高齢者の方の死亡事故が多くなっています。高齢者は白内障の進行とともに、ガスこんろのガス火の青色が見えにくくなりますので特に注意してください。

また、消費者庁が公開している医療機関からの事故事例（別紙3）では、調理中にこんろに背を向けてテレビを見ていた際に着衣着火した事故も発生しています。こんろの近くの棚を開けるなどの背を向けて作業するときは、こんろの火に近づかないよう注意してください。

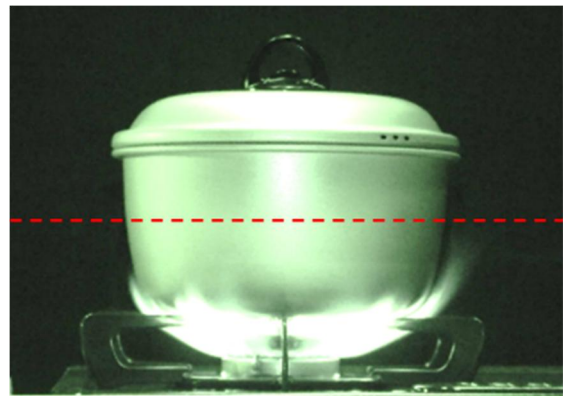
なお、衣服だけでなく、ガスこんろ周辺の物に着火するおそれもあります。こんろの上や周囲に、ふきん、樹脂製品などの可燃物を置かないでください。

■着衣着火を防ぐ対策（別紙2に着衣着火時の対処方法をまとめています）

- ・やかん、鍋などの大きさに合わせて火力を調節する。（鍋底から炎が溢れないようにする。）
- ・調理中にガスこんろの奥の調味料などを取ったり置いたりする行為は、衣服が炎に接近してしまうため、ガスこんろの奥に物を置かないようにするか、どうしても置く場合は、必ず火を消してから物を取るようにしましょう。
- ・マフラーやスカーフなど長く垂れ下がる可能性のあるものは外して、裾や袖が広がっている、毛足が長い、毛羽立っている、紐が付いているような衣服の着用はできる限り避けましょう。
- ・調理の際にはエプロンやアームカバーを着用することで、裾や袖の広がりなどを抑えることができます。また、難燃・防災仕様の素材は、炎が接しても着火しにくくまた燃え広がりにくいので、調理中の着衣着火の防止につながります。

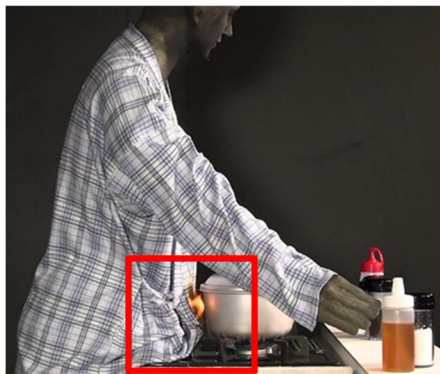


目で見える炎



赤外線カメラ

ガスこんろで加熱中の鍋を通常のカメラと赤外線カメラで見た様子



ガスこんろの炎に衣服が接触して着火



着火直後



着火の約1秒後

着衣着火後、表面フラッシュ現象で炎が広がっている様子

着衣着火など、誤使用による事故の未然防止に役立つ機能を持つ製品には、「+あんしん」（プラスあんしん）のロゴマークを表示し、消費者が安全な製品を選択できるよう、国がサポートしています。^{※6}

（※6）経済産業省「誤使用・不注意による製品事故リスクを低減した製品の表彰・表示制度」概要

https://www.meti.go.jp/product_safety/ps-award/riskssystem/about.html



表彰・表示制度（プラスあんしん）のロゴマーク

○ガスこんろの使用時及び使用後は、点火・消火の確認をする。離れる際は必ず火を消す。

ガスこんろでは、「ガスこんろの火の消し忘れや火を消さずに離れてしまった」「ガスこんろやグリルを誤って点火してしまった」ことによる事故が多く発生しています。調理中にその場を離れる際は、必ずこんろの火を消しましょう。また、こんろとグリルの操作ボタンを押し間違える事故も発生しています。ガスこんろやグリルの使用時や使用後には、必ず点火・消火の状態を確認することが大切です。

○ガスこんろやグリルは汚れを放置しない。

掃除時間を短縮するために、取扱説明書の禁止事項を行わない。

・煮こぼれ・吹きこぼれが生じた場合はきれいに拭き取る。

調理中に生じた煮こぼれや吹きこぼれを放置していると、ガス配管が腐食してガス漏れを引き起こしたり、バーナーキャップの炎口がふさがれて点火不良や異常燃焼を引き起こしたりして、事故の原因になるおそれがあります。また、煮こぼれが温度センサーに付着すると、正確な温度を測ることができず、調理油過熱防止装置などの安全機能が適切に働かなくなることがあります。

調理中に煮こぼれが発生した場合は、都度掃除を行い、汚れがたまらないようにしましょう。



ごとく周辺の汚れを放置したガスこんろ



バーナーキャップの炎口が汚れて詰まっている様子

・ **グリルは使用後、小まめに掃除する。**

グリルを使用した後は、受け皿や焼き網、庫内側面などにたまった食品かすや油脂を取り除き、小まめに掃除してください。食品かすや油脂等が付着していると、過熱されて発火するおそれがあります。また、受け皿に水を入れる必要があるグリルは、必ず水を入れて使用してください。水が無いと、受け皿にたまった油脂が過熱されて発火するおそれがあります。



グリル庫内の汚れを放置したガスこんろ



焼き網と受け皿が汚れている様子

・ **グリルで脂の多い食材を調理時は、焼き網の上下にアルミ箔を敷かない。**

脂が多く出る食材をグリルで焼く際に、焼き網の上や下（受け皿の上）にアルミ箔を敷いてしまうと、食材から出た脂がアルミ箔の上にたまり、発火するおそれがあります。グリル庫内に入れるものについて、必ず取扱説明書を確認し、機器指定以外のものは入れないようにしましょう。



脂の多い食材（鶏皮）を調理時に
焼き網の上にアルミ箔を敷いている様子

・ **グリル排気口を市販の排気口カバーやアルミ箔等でふさがない。**

グリル排気口は、グリル庫内の煙や熱を外に逃がすためのものです。汚れの付着を防ぐ目的であっても、市販の排気口カバーやアルミ箔などで排気口をふさいでしまうと、異常燃焼による一酸化炭素中毒や火災・機器の焼損につながるおそれがあります。

また、ふきんなどの可燃物をグリル排気口の上に置いたままにしていると、熱で溶けたり発火したりする危険があります。グリル排気口の上や周囲には物を置かないようにしてください。



グリル排気口をアルミ箔でふさぐ様子

・ **ガスこんろの下に段ボール、新聞紙などの可燃物を敷かない。**

ガスこんろの下に段ボール、新聞紙やビニールシートなどの燃えやすいものを敷くと、飛び散った油に引火して火災につながるおそれがあります。ガスこんろの下には可燃物を敷かないようにしてください。



ガスこんろの下に新聞紙を敷く様子

○【ペットがいる場合】出掛ける際はガスこんろの元栓を閉め、操作ボタンをロックする機能がある場合は使用する。こんろの近くにペットの興味を惹く物を放置しない。

ペットがガスこんろに寄りかかるなどして、操作ボタンを押してしまうことがあります。万が一そのような事態が起きても事故につながらないよう、ペットを家に残して外出する際は、ガスこんろの元栓を閉め、操作ボタンにロック機能がある場合は、必ずロックをかけておきましょう。

また、外出するなど目を離す際は、室内で放し飼いにせずケージに入れておくことも、大切なペットを火災から守るために有効な対策の1つです。



ガスこんろの元栓を閉める様子

事故事例を確認【NITE SAFE-Lite（ナイト セーフ・ライト）のご紹介】

○過去にどのような事故が発生しているか確認する。

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「NITE SAFE-Lite（ナイト セーフ・ライト）」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報やリコール情報を検索することができます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。



<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 川崎 裕之

担当者 製品安全広報課 宮川 七重、山崎 卓矢、清水 与也

Mail : ps@nite.go.jp Tel : 06-6612-2066

表面フラッシュ現象について

表面フラッシュ現象とは、衣服の生地表面に細かい繊維が毛羽立っている場合に、わずかな炎の接触でも毛羽部分に着火し、一瞬で衣服の表面を火が走る現象です。

表面フラッシュ現象が起こると、衣服表面に火が一気に広がるため、髪の毛へ燃え移る、慌てて動いて怪我をするおそれがあります。



図：表面フラッシュ現象（イメージ）



表面フラッシュ現象により衣服の表面を火が燃え広がる様子

表面フラッシュ現象は、以下の形状や素材で発生しやすいため、特に注意が必要です。

- 綿やレーヨンなどの植物由来の繊維
- パイル・タオル地や表面を起毛した生地
- 着古して表面が毛羽立っている衣服

着衣着火時の対処方法（神戸市消防局監修）

着衣着火時の対処方法

○直ちに水や消火器で消火を行う、周囲の人に助けを求める（すぐ衣服が脱げる場合は脱ぐ。）。

近くに水場や消火器がある場合は、着火箇所に水をかける、または消火器を使用して消火してください。また、衣服を素早く脱ぐことができる場合は、衣服を脱いでください。

一人では対処が難しい場合もあるため、周囲の人に大声で助けを求めてください。

○ストップ、ドロップ&ロール（止まって、倒れて、転がって）を行う。

衣服が脱げず、また近くに水や消火器が無い場合は、「ストップ、ドロップ&ロール（止まって、倒れて、転がって）」を実践しましょう。

パニックになって走り出してしまうと、風によって酸素が取り込まれ、火の勢いが大きくなってしまうおそれがあります。まずはその場で止まってください。

次に、体と地面の間にできるだけ隙間がないよう地面に倒れ込み、燃えているところを地面に押しつけるようにしながら左右に転がることで消火させます。

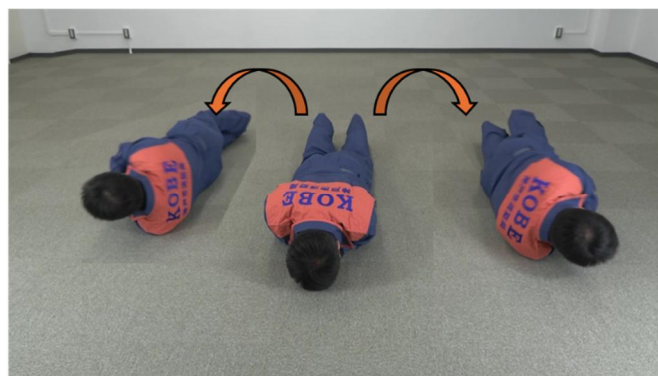
また、両手で顔を覆うようにして顔へのやけどを防ぎましょう。慌てず、落ち着いて対処しましょう。



ストップ



ドロップ



ロール

【参考情報】着衣着火の事故のデータについて

1. 総務省消防庁「火災の実態について」※1

総務省消防庁「火災の実態について」によると、2019 年から 2023 年までの 5 年間に着衣着火での死者数は 487 人となり、毎年 100 人前後の方が亡くなっています。死者数の内訳では、「その他火気取扱中」及び「その他」を除くと、「たき火中」の割合が一番多く、「炊事中」の事故が 2 番目に多くなっています。

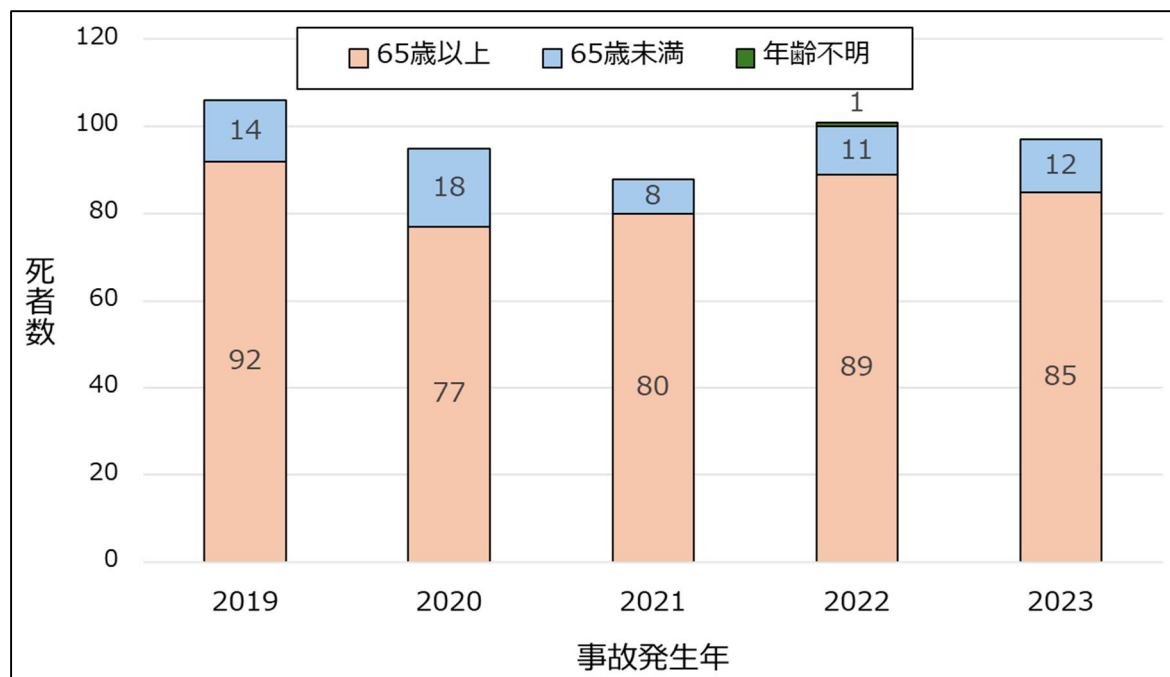


図 1：2019 年～2023 年の着衣着火の年別の死者数（消防庁のデータより作成）

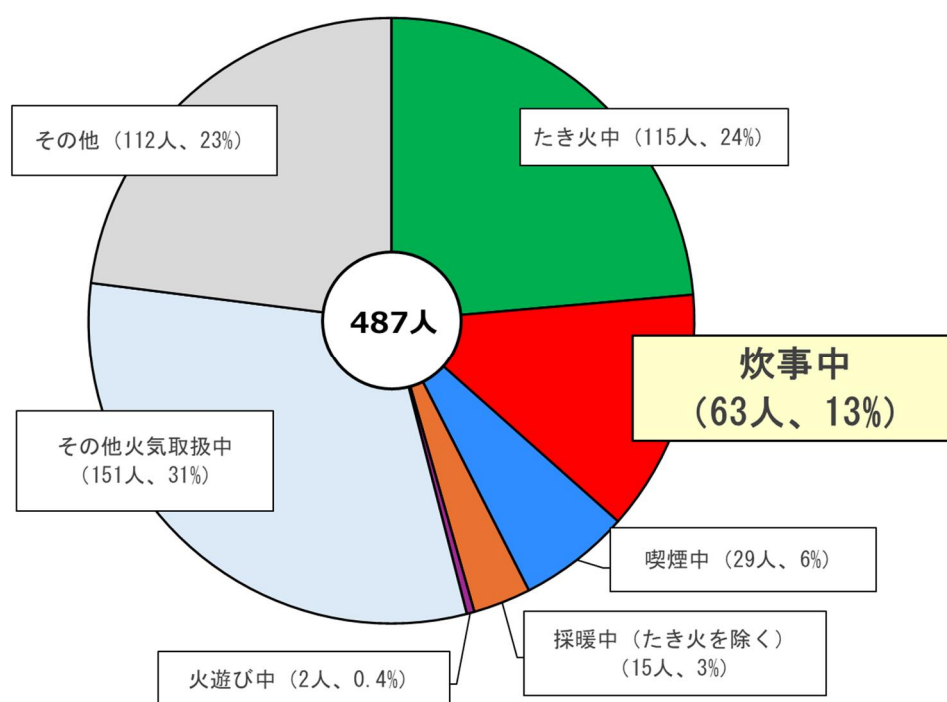


図 2：2019 年～2023 年の着衣着火の死者数の内訳数（消防庁のデータより作成）

（※1）出典：総務省消防庁 「火災の実態について」

https://www.fdma.go.jp/relocation/html/life/yobou_contents/info/

2. 消費者庁 「高齢者の事故を防ぐために（着衣着火）」※2

2-1. 医療機関から寄せられた事故情報

消費者庁・独立行政法人国民生活センターのデータによると、医療機関ネットワーク事業※3を通じて、2010年12月から2021年10月までの約11年間に86件の着衣着火による事故情報が消費者庁・独立行政法人国民生活センターに寄せられています。

データの内訳では、入院を必要とする事例が50件、死亡事例が4件ありました。着衣着火の事故発生時の行動別の件数では、ガスこんろ使用中が33件と一番多くなっています。

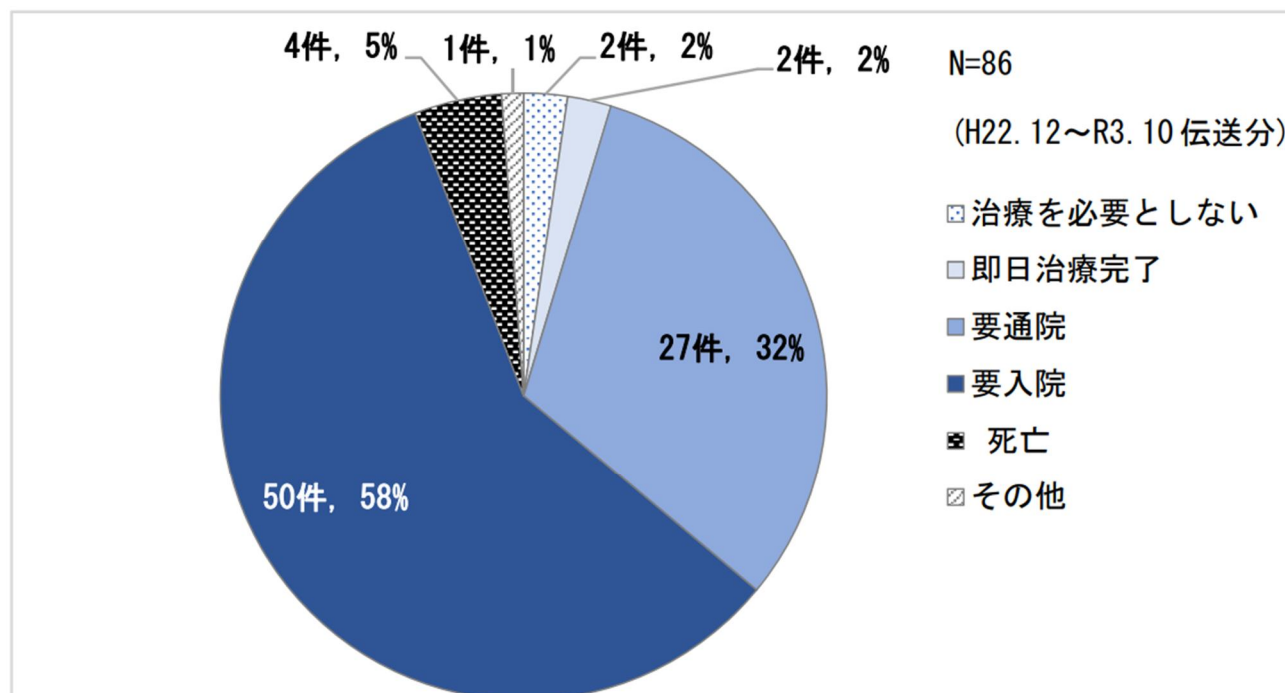


図3：着衣着火事故の治療の必要性・処置見込み別件数（消費者庁）

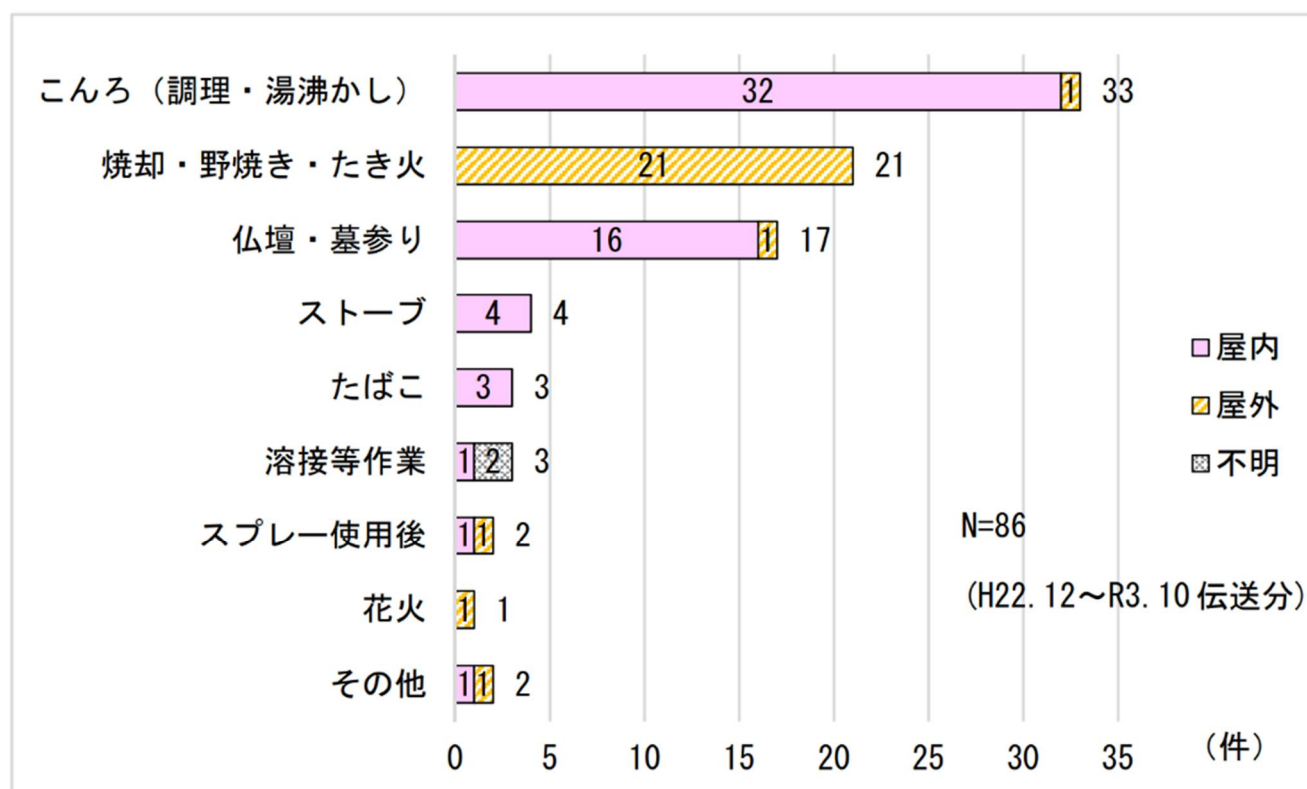


図4：行動別着衣着火事故件数（消費者庁）

2-2. 事件事例（医療機関ネットワークを通じて寄せられた事故情報）

以下は消費者庁の「高齢者の事故を防ぐために」※2の公開資料「着衣着火に関するデータ等」の事件事例の一部です。

	事故の概要	事故発生 年月	年代	性別
事例①	料理中にこんろに背を向けてテレビを見ていた。臭いと熱で背中に火が着いたことに気づき、風呂場で消火し冷却した。背部にⅢ度熱傷を負い、皮膚の移植手術を行った。	2016 年 3 月	50 歳代	女性
事例②	3つ口こんろの右手前のこんろに火を着けて調理しており、奥にある鍋を取ろうとした際、衣服の左脇の下に火が着いた。服を脱ごうとしたが脱げず、浴室のシャワーで消火し、冷却した。上腕から側胸部にかけて水疱形成を伴う深達性Ⅱ度とⅢ度が混在した熱傷を負った。	2018 年 2 月	70 歳代	女性
事例③	食事の支度中、着ていたブラウスのひらひらした袖に引火し、胸部に熱傷を負った。	2020 年 9 月	60 歳代	女性
事例④	こんろの火を消そうと手を伸ばしたところ、肩にかけていたカーディガンの袖が火に近づき燃え移った。袖の火は手で消したが、背中まで火がまわっていた。すぐに水をかけたがなかなか消えず、腰から背中にかけて水疱を伴うⅡ度の熱傷を負った。	2012 年 7 月	70 歳代	女性

（※2）出典：消費者庁 「高齢者の事故を防ぐために（着衣着火）」

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_055/#wearing_clothes

（※3）「医療機関ネットワーク事業」は、参画する医療機関から事故情報を収集し、再発防止にいかすことを目的とした、消費者庁と独立行政法人国民生活センターとの共同事業（平成 22 年 12 月運用開始）。

<https://www.kokusen.go.jp/medical-network/>